航空ファン
THE KOKU-FAN
ワイドカラー
WIDE COLOU
フォートレス爆撃
B-17
17-8301
301
特集☆
'71 4

迷彩塗装のB-52とEB-66

飛行中のB-52H爆撃機。米国フロリダ州のホームステート空軍基地の第5分遣隊所属機（1970年5月撮影）。

側面から見たB-52ストラトフォートレス爆撃機　上面は迷彩塗装で　下面を白く塗ったB 52を横から見た美しいスナップ。これもホームステート空軍基地で撮影したもの

タイ国基地でベトナム戦に出撃中のB-52F
ストラトフォートレス爆撃機　下面を黒黒く
塗り　爆弾を搭載して出動準備中の写真

EB 66 デストロイヤー

北タイ国基地で駐機中のEB-66C。全天候電子偵察型で　胴体下面には新しく設けたと思われる小型レドームが見える。

胴体下面のアンテナの数が多くなっている

ノースアメリカンF-86Fセイバー

州航空隊所属のF-86Fセイバー戦闘機。この機体はF-86Fとしては大変に珍らしい迷彩塗装をした1機である。

SUPERMARINE
SPITFIRE Mk. 1
Revell
No 19 SQN
No 54 SQN
YT D
QV K
DL N

スーパーマリン・スピットファイア Mk.1

SUPERMARINE SPITFIRE Mk.1

第2次大戦中、イギリス戦闘機の傑作であるスピットファイアは、最終生産型のMk 24に至る各型が、合計20,351機も生産され、文字どおりイギリスを代表する戦闘機として各戦線で活躍した。

スピットファイアは、シュナイダー・トロフィー・レースのチャンピオンであるS"シリーズ競争機の設計者として知られている有名なレジナルド・ミッチェルが、レーサー設計の経験をもとに設計した迎撃戦闘機で、1936年3月5日に原型機が初飛行、生産型のMk Iは1938年6月から引渡しが開始され、第2次大戦開戦時にはすでに307機が配属されていた。Mk Iは初期の2翅木製プロペラつきや、後期の標準タイプ金属3翅プロペラの機体があり、発動機もマーリン2(1,055HP)またはマーリン3を装備、武装はAタイプ(7.7mm×8)、Bタイプ(20mm×2+7.7mm×4)の2種が装備された。

☆キット紹介☆

レベルから発売されているスピットファイアは1/32シリーズにMk I、2とシーファイアとMk 5の2種があるほか、1/72シリーズではMk I、2のキットがあり、どちらのキットもスピットファイアの決定版として定評がある。

☆塗装について☆

図1は、図2と4の機体の平面塗装で、機体の上面側面はダークグリーン23とダークアース22の迷彩、機体下面は機体中心線から左半分がブラックのつや消し、右半分はスカイ24の初期迷彩で、主翼下面には国籍マークがない。

図2　第65(通称東インド中隊)所属機で、右面の文字は機首方向からD○YT

図3　図2とともバトル・オブ・ブリテンで活躍した機体で、ダークグリーン23とダークアース22の迷彩であるが、ダークアースは少し黄色が強く、胴体の国籍マークは上部が機体中心線まであるビッグサイズである。機体下面はスカイ24。胴体右の文字は機首方向からQV○K

図4　第54スコードロン所属の初期型Mk Iで、ダークグリーンとダークアースの迷彩。尾翼のマークは白黒のライオンの模様があり、その下にリボンが記入されている。(K. Hashimoto)

Mk I データ(Mk I technical data)

乗員1名(crew 1) 寸法(dimensions) 全幅(span) 11.23m, 全長(length) 9.12m 全高(height) 2.69m, 翼面積(wing area) 22.48m² 発動機(power plant) マーリン3(Merlin 3)(1,030HP)×1基 全備重量(gross weight) 2,812kg, 最大速度(max. speed) 582km/h, 実用上昇限度(service ceiling) 9,720m, 航続距離(range) 636km, 武装(armament) 7.7mm×8または20mm×2+7.7mm×4。

The Spitfire was the greatest of British fighters during World War II. A total of 20,351 Spitfires were produced including the last model made the Mk 14. This is a representative British fighter. The Spitfire was an interceptor designed by Reginald Mitchel who was known as the designer of the "S" series of racing aircraft which were the champions of the Schneider Trophy Race. Mitchel designed the Spitfire after his racing aircraft.

The first flight was made March 5 1936 and was declared operational in June 1938. From then until the outbreak of WWII 307 of the aircraft were turned over to the military. In the early days the Mk 1 had a two bladed propeller but in later years was equipped with a three blade propeller this is the standard model Spitfire. Its engine was a Marine model rated at 1,050 horse power. There were two types of armament configurations eight 7.7mm machine guns or four machine guns and two 20mm cannon.

KIT: Revell has on sale the Spitfire Mk 1 and Mk 2 models as well as the Mk 5 Seafire in the 1/32 series. The smaller 1/72 series includes the Spitfire Mk 1 and Mk 2. Model fans agree that no other Spitfire kits are better than these.

PAINTING: Fig 1 Shows the painting scheme of the spitfire in Fig 2 and 4. The top and sides of the fuselage are camouflaged with RC 23 dark green and RC 22, dark earth. The lower left fuselage is frosted black and the lower right half is RC 24 sky. This was the camouflage painting during the early days of the Spitfire. There was no insignia on the wings.

Fig 2. This Spitfire belonged to the 65th Squadron known as the East Indian Squadron. Markings on the right side read from the nose "D○YT"

Fig 3. Similar to the plane in Fig 2 this aircraft's activities were well known in the Battle of Britain. It is camouflaged with RC 23, dark green, and RC 22 dark earth (with a yellowish tinge). The insignia on the fuselage is so large it reaches the center line of the aircraft. The lower fuselage is RC-24 sky. Markings on the right hand side of the fuselage read from the nose "QV○K"

Fig 4. This is an Mk 1 produced during the early days of the War and belonged to the 54th Squadron. It was camouflaged with dark green and dark earth. On the tail is a lion in black and white. Under the lion is a ribbon streamer. (K Hashimoto)

スピットファイアの塗装に
必要なレベル・カラー

①ホワイト	㉒ダークアース
㉓ダークグリーン	㉔スカイ
㉗機体内部色	㉝黒つや消し

ユンカース Ju87B スツーカ

JUNKERS Ju87B STUKA

第2次大戦の初期、ドイツ軍の電撃作戦の花形として活躍。ドイツ軍の進むところスツーカあり、スツーカのあるところ必ず勝利あり」、その猛威を発揮した急降下爆撃機。

〈キット紹介〉

レベル社のクラシックキット（32シリーズ）のJu87Bのキットは、もっともスツーカの魅力を再現している優秀キットとして認められている。可動部はキャノピやプロペラ、車輪などである。詳細なコクピットや実感のあるエンジンを内蔵するなど豪華版である。

デカールは最も派手な胴体全長にわたる蛇のマークのほか合計3種が付属。日本語の説明書で塗装図も完全大型カラー図がついている。

〈塗装について〉

図1は、図4の機体の塗装で、機体の上、側面はブラックグリーン[18]、下面はライトブルー[20]、主翼下面の翼端は左右ともイエロー[4]のつや消しで、左右ともDの黒文字。機首と方向舵はイエローのつや消しとなっている。

図2 第2急降下爆撃大隊第3中隊所属機で、塗装は図1と同じ。機体の上、側面はブラックグリーン[18]、下面はライトブルー[20]の迷彩。主翼下面翼端も黄色となっていて図1と同じである。Aの黒文字がある。スピナはスカイブルー[24]。

図3 第3急降下爆撃大隊第3中隊の所属機で、機体の上、側面はサンディブラウン[3]の地色の上にダークグリーン[2]のまんだら迷彩あり。部分的にブラックグリーン[18]のまんだらもある。胴体下面はライトブルー[20]。主翼下面翼端と胴体の帯およびスピナ先端は白のつや消し。なお、このマークはレベル・デカールで別売りされている。

図4 第3急降下爆撃大隊第3中隊所属機で、塗装は図1に示してあるが、黒の胴体側面に図5のマークがあり、スピナは機体と同じブラックグリーンとなっている。（K Hashimoto）

Ju87B データ（Ju87B technical data）

乗員2名（crew 2）　寸法（dimensions）　全幅（span）13.8m　全長（length）11.1m、全高（height）3.9m

全備重量（gross weight）4,250kg、発動機（power plant）　ユンカース　ユモ（Junkers Jumo）211Da（1,200HP）×1基　最大速度（max speed）387km/h

実用上昇限度（service ceiling）8,000m、航続距離（range）560km、武装（armament）7.9mm×3　爆弾（bomb）500kgまたは250kg×1　50kg×4

The "Star of Blitzkrieg Tactics" the Stuka was the primary German dive bomber during the early stages of World War II This aircraft was so well known it was said "Where German forces march there are Stukas where there are Stukas, there is victory

KIT: The Revell 1/32 series includes the Ju-87B Model fans will agree that this kit excellently depicts the stark charm of the engine Three decals are included in the kit one of which is a snake winding itself around the fuselage A painting manual written in Japanese and a large color figure are also part of the kit

PAINTING: Fig 1 Shows the painting scheme of the aircraft in Fig 4 The top and sides of the fuselage are Revell Color (RC) 18 black green The lower surfaces of the fuselage are RC 20 light blue The lower tips of the wings are frosted RC 4 yellow The letter "D" is painted in black on both wings The nose and rudder are also frosted yellow

Fig 2 This Stuka belonged to the III/St G-2 The top and sides of the fuselage are RC-18, black green while the bottom is camouflaged in RC-20 light blue The lower wing surfaces and wing tips are the same yellow as in Fig 1 The only difference from Fig 1 is the letter A The propeller is sky blue

Fig 3 This plane belonged to the III/St G 3 The top and sides of the fuselage are painted RC-19 sandy brown, with spot camouflage of RC 17 dark green and RC 18 black green. The lower fuselage is RC 20 light blue The lower wing tips the fuselage band and propeller tips are frosted white The decal in this figure can be purchased separately from Revell

Fig 4 This aircraft belonged to the III/St G 3 also The painting is as shown in Fig 1 The fuselage and propeller are black (K. Hashimoto)

Ju87Bの塗装に必要なレベル カラー	
①ホワイト	④イエロー
②ダークグリーン	⑱ブラックグリーン
③サンディブラウン	⑳ライトブルー
⑲フラットベース	⑬黒つや消し
㉔スカイブルー	

ユンカースJu87爆撃機　Ju87B胴体および主翼下面に　　　　て　離陸し向うスツーカ爆撃機　逆ガル型の主翼がよくわかるアングル写真で　塗装は上面がフォレスト・グリーン及びオリーブ　グリーンのパターンで　下面はペール　　ーのようである。

ユンカースJu87Bスツーカ

このJu87Bはシカゴ科学産業博物館に展示されている機体で，第2次大戦中に北アフリカの砂漠のなかで発見されたもの。発見当時のままで保存されていた。

ロッキードSR-71A戦略偵察機

日の丸ファントムF－4EJ初飛行

"ブルー・イーグルス"という米海軍の空飛ぶ放送局は、南ベトナムでの広い区域に展開している米軍の将兵向けの放送局。ベトコンの襲撃が激しい地上では安全が期待されないので、1966年1月から2機の"ブルー・イーグルス"を使って放送が行なわれている。これは、そのうちでもC-121J輸送機を改造した高性能機で、機内にはラジオとテレビ用のテープやフイルムのほかアナウンサーが生の放送を送れる部屋まで設けられている。胴体の上下に何本ものアンテナが突き出ているうえに、軍用機であるのに民間機なみに国籍マークを付けていないなど、とにかく変った飛行機である。

PS-1の生産を見る
新明和甲南工場訪問
安
全
02

02

(Photo by TASS)

ソビエト軍用機スナップ集

《続》

フォート ニュース

IWATA
航空機から原子力まで
展示用模型
★豊富な経験と
新らしいアイデア！
★定評ある最高の技術！
岩田ソリッドモデル研究所
ビーチクラフト
"ボナンザ"

未発表 海軍機写真集 ③ 川西 紫電改 戦闘機

(USMC Photo)

Captured Japanese Navy Shiden Kai (NIK 2-J George) interceptor fighters warm up on the taxiway at the Omura Air Base, Kyushu preparatory to a flight to Yokosuka for shipment to the U.S.A. on 16th Oct. 1945

終戦とともに九州の大村海軍航空基地へ進駐したアメリカ海兵隊 第22航空大隊 は くずれおちたハンガーのなかに数多くの「紫電改」を発見した。初めてまぢかに見る 日本の恐るべき新鋭戦闘機ジョージ。半数何機かが選ばれ、日本の整備員を動員して整備 アメリカへ輸送のために横須賀へ空輸された。

空輸にあたったのは武装を解除された日本海軍のパイロットたち。海兵隊のコルセアの監視つき すでに日の丸は消されていたが、これが海軍航空の最後、名機「紫電改」の最後の飛行でもあった。アメリカ軍が「紫電改」を手に入れ、その高性能の秘密をあばく機会を得たのは、このときが初めてである。

55ページからここの各枚は すべて大村基地のエプロンにて、横須賀への空輸直前のスナップ。日の丸の位置にアメリカ記章が書かれ、簡単な記号が付けられただけで、各機ともまだもとのままの塗装。塗料がはげかけた緑色カウリングが激戦のあとをとどめている。昭和20年3月松山上空でアメリカ艦載機を迎え撃って大活躍した343空の「紫電改」部隊はその後鹿屋から大村へと転進しているがこの各機もその一部と思われる。

記録フィルムに見る「連山」の進空式

27年ぶりの“誌上封切り”

THE RARE PHOTOGRAPHS OF THE RENZAN'S LAUNCHING CEREMONY FROM DOCUMENTARY FILM

ボーイング B-17G

大編隊で進攻中のB-17G〔上〕マルのなかにY字の記号を書いた第2爆撃大隊429爆撃中隊の所属機 黒っぽく見える空に長く引いた白い飛行機雲，力強く美しいスナップである。
〔下〕これも見事な編隊のB-17G，尾翼に三角地にWの記号を付けた第456爆撃大隊第806中隊（胴体に4桁の記号）の所属機

J
48151
O

F4U コルセア

(上)陸上を基地として使われたF4U-1D　所属部隊は不明であるが　1943年12月〜44年1月頃　ブーゲンビル島と思われる

上と同じく所属部隊ははっきりしないが，1944年3月，エンゲビ島で作戦中のF4U-1D　機体はすべて三色迷彩塗装

（上） 600HPエンジン12基を搭載したドルニエDo X型飛行艇。1930年1月からコンスタンス湖を基地として大陸間飛行に飛用

（右 下） ユンカースF 13。前身のユンカース航空で1919年から使われている 客室を備えた初めての本格的な旅客機 下の写真で 当時の全金属製旅客機の特徴である波形外板がよくわかる。

（左） ヘルシンケルン間…航路のドルニエ メルクル。1920年代に使用された全金属製の中型旅客機

エアラインの翼

ルフトハンザ ドイツ航空 ①

"ドイツ ロイド航空"と ユンカース航空 の2社が合併して ルフトハンザ が誕生したのは1926年1月6日 戦後の一時期 日本と同じく翼を奪われた空白期間があり国は東西 分割された。 後身の ルフトハンザ ドイツ航空 の歴史は はや60年余を数えることになる 創立当時 すでに 各種の旅客機 00機近くを保有していた同社は その後も3発 4発の新鋭機をつぎつぎに発注 投入していった その中から主なものを順に 紹介することにしよう。

スミス ミニプレーン